

印旛沼源流域の里山における環境教育

草野 孝江, 鈴木 久夫, 山崎 卓, 岡本 伸正
特定非営利活動法人 NPO 富里のホタル

キーワード: 里山保全, 人材育成, 意識啓発

抄録

印旛沼の源流域である千葉県富里市で活動する私達「NPO 富里のホタル」は、市内に自然発生するホタルを守りたいという動機から活動が始まった。その後、ホタルを守るためには、その生息域を取り巻く里山全体を健全な状態にする必要性に気付き、それと共に、里山の持つ多面的な価値を実感する事となった。それらを将来にわたって守り続けるためには、子供達への環境教育が何よりも大事と考え、様々な取り組みを行っている。里山で遊ぶ・食べる・感じることで楽しい原体験を得て、その子供達が成長した時、里山を守る動機になれば、と願っている。現在、1年間に延 3000人以上の子供達を私たちの里山に迎え入れており、里山の空間や生き物が好きな子供が、多数誕生している。これらの取組から、場を提供すれば、現代の子供達でも活発に野で遊ぶことが実証されており、この子供達がいずれ印旛沼源流域の環境保全の担い手となることが大いに期待される。

1. はじめに

千葉県富里市は千葉県の代表的な湖沼である印旛沼の源流域に位置する。私達は市内の谷津田に自然発生するホタル(ヘイケボタル・ゲンジボタル)を守り、それを次世代に引き継ぎたいという想いから、「NPO 富里のホタル」を2007年に設立した。

私達はホタルの生息環境を整える為に草刈りなどを行ったが、やがて、耕作放棄されて陸地化が進行していた谷津田の復田、それを取り巻く斜面林の整備、それに連なる森林や耕作地との関りなどが重要な要因ではないかと、ホタルについての理解が進むにつれて気付き始めた。

それと共に、畑作が盛んな富里市では、施用される肥料により湧き水の窒素濃度がとても高いことと、それが印旛沼に流れ着き、水質に影響を及ぼしていることを知った。その一方で、谷津に湧き出した窒素濃度の高い水が、田んぼを下るにつれて脱窒されていくデータを得て、ホタルを保護するための活動が、水質浄化という思わぬところに影響を及ぼすことを実感することとなった。

このような谷津田を含めた里山の持つ多面的な価値を知るにつれて、これらを将来にわたり守り続けるためには、通常の整備・保全活動と共に、子供達への環境教育がとても大事であろうということに思い至り、力を注いでいる。

2. 方法

市内の教育施設に打診し、先方の要望に沿って以下のような取り組みを行っている。

・絵本の読み聞かせ(幼稚園等)

市内5か所の幼稚園等で毎月1回、主に生き物に関わる絵本・紙芝居の読み聞かせを行っている。身近な生

き物に対する興味の入り口となることを目的としている。



写真1 絵本の読み聞かせ

・生き物出前教室(幼稚園等)

年3回、市内5か所の幼稚園等で、谷津で採取した生き物を持ち込み、手で触れてもらっている。併せて、生き物クイズを出題したり、園児達の素朴な質問に答えたりして、生き物に親しみを持つ機会としている。



写真2 生き物出前教室

・自然観察会, 昔遊びの伝承(小学3年生)

地元小学校の3年生に, 春・秋の2回行っている。住む地域の自然や文化を知るきっかけになることを目的とする。



写真3 自然観察会

・稲作体験学習(小学5年生)

地元小学校の5年生に, 代掻き・田植え・稲の生長観察・稲刈り・昔の農機具体験・収穫米での食事を行っている。各作業の際は, 地元の農家の方に講師を務めて頂いている。



写真4 稲作体験学習

・里やま塾

「里やま塾」と称して参加者を募り, 年5回開催している。春の野草の試食, 田植体験, ホタル観賞, 稲刈体験, 伐採・植樹体験を行い, 併せて, 楽しい遊びに競技性を加味したサブイベントを行っている。また, 参加者と私達スタッフが一緒に, その場で調理した昼食を食べることを恒例としている。

以上の他, 近隣中学校と高校の生物部の生徒達が, 生物調査やボランティア活動の場として私達の活動拠点を, 毎週のように訪れている。

3. 結果

以上のような取り組みを続けた結果, 現在, 1年間に延3000人以上の子供達と接することとなった。

幼稚園児とは顔馴染みとなり, 私達の来園を心待ちにしてくれているとのことで, 大きな励みになっている。ザリガニ・カブトムシ・ドジョウ・カエルなどは大人気で, はじめは怖がっていた園児達もすぐに平気で手で触れるようになる。



写真5 里やま塾「田植体験」



写真6 里やま塾「植樹体験」



写真7 里やま塾「泥玉鬼退治」

小学生は, 田んぼを訪れた後には教室に戻ってから興奮が続き, そのあまり, その後放心状態になると担任の先生から報告を頂く。子供達の感想も「楽しかった」「また行きたい」というものがほとんどで, なかには「田んぼの生き物を守りたいです。私は頑張ります。」という感想まであった。

定期的に谷津を訪れる中学生の保護者からは, 「谷津に通うようになってから積極的になり, 明るくなった」という声がいくつも寄せられている。

軽度の障害を持ち, 今までほとんど笑ったことのない子が, 谷津を訪れたら大きな声で笑うようになったり, 登校しても教室に入れなかった子が, 生き物に触ることをきっかけに教室に入れるようになったりと驚くべきことが起きていて, 自然環境や生き物たちの持つ潜在力を実感している。

4. 考察

私達が子供達を相手にするときに強く心掛けていることは、「里山は楽しい・面白い」と心に刻んでもらうことである。知識を与えることはその次の段階と考えている。このように意識してイベントを企画するようになったところ参加者が一気に増え、一度参加した人達はリピーターとなる。

子供達が「楽しい・面白い」と感じる要素は、遊ぶこと・生き物を捕まえることなどいろいろとあるが、食べるということも大きな要素だと取り組みの中で気づき、可能な限り里山で皆で食べる機会を作るようにしている。

現代の子供達は自然環境の中で遊ぶことをしなくなったと言われるが、里山で遊ぶときの子供達のみずみずしい感性や意外な目線に触れると、場と機会を与えれば、とても活発に遊びまわることが実証されているように思う。

このようなことが子供達にとって楽しい原体験となり、その原体験を持って成長した時、そこがいつまでもあの頃のままであって欲しいと思うはずで、それが環境保全の動機になると考えている。

5. 結論

現在活動に携わっている私達の根源的な動機は、子供時代の懐かしく楽しい思い出が元になっていると、日頃の話し合いの中で確信している。私達が関わっている子供達も、そのような道筋を辿ってくれるものと期待している。

ホタルを守りたいという動機から始まった私達の活動が里山保全に行き着き、印旛沼の源流域であることから、ここから送り出される水が下流の環境にまで影響を及ぼすことを知ることになった。環境については、ある行動が思いもよらぬところと関わりを持つということ、成長した子供達も、当然そのような視点を持つことになると考えている。

どのような立場の大人になっても、「里山は楽しい、様々な価値がある、守るべきもの」という観点をもって行動して欲しいと望んでいる。それが富里の里山を守ることであり、つまり印旛沼の源流域の環境保全につながると考えている。